

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2010～2013

課題番号：22242013

研究課題名(和文) やさしい日本語を用いたユニバーサルコミュニケーション社会実現のための総合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive study toward the realization of a universal communication society based on the concept of yasashii-nihongo (easy Japanese)

研究代表者

庵 功雄 (IORI, ISAO)

一橋大学・国際教育センター・教授

研究者番号：70283702

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 27,000,000円、(間接経費) 8,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では「やさしい日本語」という概念の明確化に努め、「やさしい日本語」には、(1)補償教育、(2)地域社会の共通言語、(3)地域型初級、という3つの側面があることを明らかにした。次に、「やさしい日本語」の理念にもとづく教材を作成し、それを用いた新しい地域日本語教育のあり方を伝えるため、日本全国で講演やワークショップを200回以上開催した。

公的文書の書き換えの規格化にも取り組み、経験10年以上の日本語教師の手で公的文書を書き換えたコーパスを作成・公開し、「やさしい日本語」に書き換えるための支援ツールを開発した。「やさしい日本語」に関する研究を総括し今後の研究の方向性を示す一般書を公刊した。

研究成果の概要(英文)： We clarified the notion "yasashii nihongo(easy Japanese)" in this project and showed that there are three domains in "yasashii nihongo": 1)"yasashii nihongo" as a compensatory education, 2)that as a common language in the local society, and 3)that as a grammatical syllabus suitable for Japanese language teaching in it. We published two Japanese textbooks based on the concept of "yasashii nihongo" and held lectures and workshops more than 200 times over the country to convey a new method for local Japanese language teaching.

We also have struggled the standardization of rewriting patterns of official documents into "yasashii nihongo" and opened a corpus to the public which collects the rewordings of official documents by Japanese teachers who have more than 10 or more years' careers. We developed several tools supporting the rewriting and published an enlightening book summarizing researches on "yasashii nihongo" so far and showing some ways for which "yasashii nihongo" are heading.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

 キーワード：やさしい日本語 日本語教育 言語政策 自然言語処理 教材開発 書き換え支援システム 接触場面  
コーパス

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) 増加する定住外国人に関連する言語問題を、日本語教育の観点から総合的に考察することが喫緊の課題であった。
- (2) 平時における定住外国人への情報保障という観点から「やさしい日本語」という概念を明確にすることに重要な意味があった。
- (3) 先に策定した地域日本語教育のための初級文法シラバスにもとづき、公的文書の書き換えの体系化を行うことにより、限られた文法的知識を用いて、定住外国人が公的文書を理解することを可能にする。そして、そのことを通して、定住外国人に対する情報提供を保障するということが、今後日本社会が彼(女)らを受け入れる上で解決されるべき重要な言語政策上の課題である。
- (4) 先に策定した地域日本語教育のための初級文法シラバスにもとづき、定住外国人と地域の日本語母語話者が交流することを可能にする。このことは、日本が真の多文化共生社会を迎えるための重要な基盤である。

## 2. 研究の目的

- (1) 「やさしい日本語」の枠組みにもとづいて公的文書の書き換えを体系化する。
- (2) 「やさしい日本語」を用いた公的文書の書き換えを自動化する上で問題となる点を明らかにする。
- (3) 「やさしい日本語」の理念を全国に普及し、日本が今後真の多文化共生社会を迎えるための基盤を確固としたものにする。
- (4) 公的文書の「やさしい日本語」への書き換えをより実効性を持つものとするために、自治体との協働を実現させる。

## 3. 研究の方法

- (1) 「やさしい日本語」の理念にもとづく、地域日本語教育のための教材を開発した。この教材は次の点でこれまでの学校型初級教材にない、地域日本語教育の実情にそくしたのものになっている。これまでの学校型日本語教育に比べて大幅に文型を絞り込んでいる。これは、週1回2時間が標準という地域日本語教室の実情にそくしたものである。理解よりも産出を重視している。これは、外国人をメッセージの受け手の立場から主体的に行動できる存在に移行させることを目指したものである。(図書 参照) 専門のデザイナーに依頼して書いてもらったイラストを豊富に用いている。また、文法項目などをまとめた4言語対応でフルカラーの「したじき」を付録としてつけた。これらは、ボランティアが中心の地域日本語教育の現場

でも外国人と日本語でコミュニケーションができることを目指したものである。

- (2) (1)の教材を用いて、「やさしい日本語」の理念を伝えるための講演、ワークショップを全国で延べ200回以上行った。ここでは、教材を「日本語教育」のツールとして使うということだけではなく、地域日本語教室におけるボランティアの役割についても話した。すなわち、地域日本語教室の最も重要な役割は、定住外国人の「居場所」となることであり、ボランティアにとって最も重要な役割は日本語を「教える」ことではなく、外国人と信頼関係(ラポール)を形成し、外国人が地域日本語教室に自らの「居場所」を求めてやって来る環境を作ることであること、そして、そのことがひいては外国人の日本語習得を促進することを述べた。(図書 参照)
- (3) 公的文書から「やさしい日本語」への書き換えを体系化するために、日本語教師の手による比較的大規模な公文書書き換えコースパスを作成した。
- (4) 公的文書を「やさしい日本語」で書き換える際に参照すべき指標を計算するための各種ツールを開発した。

## 4. 研究成果

- (1) 「やさしい日本語」の理念について深く検討を重ね、「やさしい日本語」は次の3つの役割を担うべきであることを明らかにした。(図書 雑誌論文 参照) 「補償教育の対象」。これは、日本社会が多言語化できない現状において、「やさしい日本語」をその代替として位置づけ、より多くの定住外国人が「やさしい日本語」を通して、必要な情報を得られるようにするということが、および、そうした目的を実現するために必要な初期日本語教育を公的に保障することを求める上での基盤となるものである。「地域社会における共通言語」。地域社会において、日本語母語話者と定住外国人が真の隣人となるためには両者の共通言語が必要となるが、英語はこの目的にふさわしくなく(雑誌論文②参照) また、日本語母語話者が何の調整もせずにいる日本語もふさわしくない。(図書 参照) その結果、こうした共通言語の役割を担うのは、論理的に考えて「やさしい日本語」しかない。そして、「やさしい日本語」がそうした共通言語の役割を担うか否かが、今後日本社会が真の多文化共生社会となり得るかの重要な試金石となることを明らかにした。(図書 参照) 「地域型初級の対象」。これは、学校型日本語教育に比べ、圧倒的に時間数が少ない地域型日本語教育の実情において、「やさしい日本語」のシラバスは最適であるということである。

(2) 「やさしい日本語」の理念にもとづく地域日本語教育のための教材を開発した。この教材は現在市販されている全ての初級日本語教材の中で、最も地域日本語教育の実情にそくした内容になっている。さらに、この教材は、上記(1) で述べた「地域社会の共通言語」としての「やさしい日本語」という理念を実現する上で重要な役割を担うものである。すなわち、この理念を実現するためには、日本語母語話者が自らの日本語を外国人が理解できるものに調整することが求められるが(雑誌論文 参照) この教材はそうした調整能力を養うという目的に非常にかなったものである。

(3) 「やさしい日本語」の理念を伝えるための講演・ワークショップの全国でのべ200回以上開催した。ここで、地域日本語教室で定住外国人と接している地域住民に「やさしい日本語」の理念(上記(1)の ~ )を直接語りかけた。その反響は大きく、一度講演を行ったところやその近隣地域から、その後も講演の依頼が寄せられることも珍しくない。

(4) 協力自治体から提供を受けた 公的文書を、公募で集めた経験 10 年以上の日本語教師の手で「やさしい日本語」に書き換えた「公的文書書き換えコーパス」を作成し、原自治体の許諾を画面で得た上で、公開した。このコーパスは以下の点においてこれまでにない成果となっている。これまでの書き換えデータに比べ大規模である 経験 10 年以上の日本語教師という書き換えに適した属性を持つ人による書き換えである点でその書き換えの内容に対する信頼性が高い 逐語訳、意識、要約という3レベルを設けて書き換えているので、今後の自然言語処理分野における利用可能性が大きい。

(5) (4)のコーパスを言語学的に分析した成果を発表した。(文献 参照) 公的文書がこうしたデータベース的な形で言語学的に論じられたことはこれまでになく、特に文献の内容は今後の語彙研究に重要なインパクトを与えるものである。

(6) 「やさしい日本語」の理念を明確にし、それに関するさまざまな考え方を集約した啓蒙書を刊行した。この本は、これまでの本研究の成果を網羅しただけではなく、ろう児に対する日本語教育や、「やさしい日本語」を日本語母語話者に対する生涯教育に活かす試みなど、本研究の今後の方向性をも示す内容となっている。(雑誌論文 ほか参照)

(7) 「やさしい日本語」の書き換えをより実質的なものとする上で極めて重要な自治体との協働体制を確立した。このことにより、「やさしい日本語」の研究(特に、公的文書の書き換え)が単なる理念的なものから完全に脱し、実効性をともなう研究へと進むこと

が可能になった。このことは、社会に対する直接的な貢献を目指す本研究にとって、極めて重要な意味を持っている。

(8) 「やさしい日本語」を書き換える際に参照すべき指標を計算するための各種ツールを開発した。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 40件)

庵 功雄、「やさしい日本語」研究の現状と課題、査読有、一橋日本語教育研究、2号、2014、1-12

庵 功雄、「やさしい日本語」とは何か、査読有、「やさしい日本語」は何を目指すか、2013、3-13

柳田直美、「やさしい日本語」と接触場面、査読有、「やさしい日本語」は何を目指すか、2013、79-95

宇佐見洋、「やさしい日本語」を書く際の配慮・工夫の多様なあり方、査読有、「やさしい日本語」は何を目指すか、219-236

岩田一成、文法から見た「やさしい日本語」、査読有、「やさしい日本語」は何を目指すか、117-140

森 篤嗣、語彙から見た「やさしい日本語」、査読有、「やさしい日本語」は何を目指すか、99-115

庵 功雄、公文書書き換えコーパスの統語論的分析：受身を中心に、査読無、人文・自然研究、7号、2013、4-21

柳田直美、接触場面における母語話者のコミュニケーション方略に関する研究の動向と課題、査読有、関西学院大学日本語教育センター紀要、2号、2013、21-35

庵 功雄、日本語教育における「文法」を問い直す、査読無、Romaji no Nippon、663号、2013、1-7

庵 功雄、学会誌『日本語教育』展望「日本語」分野、査読有、日本語教育、153号、2012、25-39

庵 功雄、新しい文法教育のパラダイム構築のための予備的考察、査読有、日中言語研究と日本語教育、5号、2012、37-45

庵 功雄、日本語教育文法の現状と課題、査読有、一橋日本語教育研究、創刊号、2012、1-12

岩田一成・庵 功雄、看護師国家試験のための日本語教育文法：必修問題編、査読無、人文・自然研究、6号、2012、56-71

庵 功雄・岩田一成・森 篤嗣、「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え：多文化共生と日本語教育文法の接点を求めて、査読無、人文・自然研究、5号、2011、115-139

宇佐美洋・田中真理・徳井厚子、評価の「個人差」に着目することの意味 - より深い自己認識につなげるための評価論 -、査読無、ヨーロッパ日本語教育、16号、2012、36-50

庵 功雄、100%を目指さない文法の重要性、査読有、日本語教育文法のための多様な

アプローチ、2011、79-100

庵 功雄、日本語記述文法と日本語教育文法、査読有、日本語教育文法のための多様なアプローチ、2011、1-12

庵 功雄、日本語教育文法からみた「やさしい日本語」の構想 初級シラバスの再検討、査読有、語学教育研究論叢、28号、2011、255-271

森 篤嗣、職種別に見た滞日年数と言語能力の相関 日本語能力自己評価と言語行動可能項目数を指標として、査読有、社会言語科学、13(2)、2011、97-106

庵 功雄、産出のための日本語教育文法「は」と「が」の使い分けを例として、査読有、台湾日本語文学報、28号、2010、40-55

① 岩田一成、言語サービスにおける英語志向「生活のための日本語：全国調査」結果と広島市の事例から、査読有、社会言語科学、13巻1号、2010、81-94

② 庵 功雄・岩田一成・筒井千絵・森 篤嗣・松田真希子、「やさしい日本語」を用いたユニバーサルコミュニケーション実現のための予備的考察、査読有、一橋大学国際教育センター紀要、創刊号、2010、31-46

〔学会発表〕(計 10件)

Manami Moku, Kazuhide Yamamoto and Ai Makabi, Automatic Easy Japanese Translation for information accessibility of foreigners, Coling-2012 Workshop on Speech and Language Processing Tools in Education, 2012.12.8、ムンバイ

川村よし子・北村達也、やさしい日本語への書き換えリストの作成とその評価、2012年度日本語教育学会秋季大会、2012.10.14、札幌

宇佐美洋、難解文書の書き換えプロセスに見られる「評価」への意識、2012年度日本語教育学会秋季大会、2012.10.14、札幌

庵 功雄、「やさしい日本語」の実相受身の場合、2012年度日本語教育国際大会、2012.8.19、名古屋

庵 功雄・岩田一成・筒井千絵・森 篤嗣・松田真希子、パネルディスカッション 日ほんやくコンニャクプロジェクト 「やさしい日本語」を用いたユニバーサルコミュニケーションを目指して、2010年度日本語教育学会春季大会、2010.5.23、東京

〔図書〕(計 8件)

庵 功雄・イ・ヨンスク・森 篤嗣編著、ココ出版、「やさしい日本語」は何を目指すか、2013、1-351

庵 功雄、くろしお出版、日本語教育・日本語学の「次の一手」、2013、1-207

庵 功雄・三枝令子、スリーエーネットワーク、上級日本語文法演習 まとまりを作

る表現、2012、1-84

森 篤嗣・庵 功雄編著、ひつじ書房、日本語教育文法のための多様なアプローチ、2011、1-357

庵 功雄監修、ココ出版、にほんごこれだけ! 2、2011、1-103

庵 功雄監修、ココ出版、にほんごこれだけ! 1、2011、1-95

〔その他〕

ホームページ等

<http://www13.plala.or.jp/yasashii-nihongo/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

庵 功雄 (IORI, Isao)

一橋大学・国際教育センター・准教授

研究者番号：70283702

### (2) 研究分担者

森 篤嗣 (MORI, Atsushi)

帝塚山大学・現代生活学部・准教授

研究者番号：30407209

岩田 一成 (IWATA, Kazunari)

広島市立大学・国際学部・准教授

研究者番号：70509067

川村 よし子 (KAWAMURA, Yoshiko)

東京国際大学・言語コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40214704

山本 和英 (YAMAMOTO, Kazuhide)

長岡技術科学大学・工学部・准教授

研究者番号：40359708

柳田 直美 (YANAGIDA, Naomi)

関西学院大学・日本語教育センター・講師

研究者番号：60635291

宇佐見 洋 (USAMI, Yo)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立国語研究所・日本語教育・情報センター・准教授

研究者番号：40293245

松田 真希子 (MATSUDA, Makiko)

金沢大学・留学生センター・准教授

研究者番号：10361932

湯川 高志 (YUKAWA, Takashi)

長岡技術科学大学・工学部・教授

研究者番号：70345536

三上 喜貴 (MIKAMI, Yoshiki)

長岡技術科学大学・工学部・教授

研究者番号：70293264

金田 智子 (KANEDA, Tomoko)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：50304457

尾崎 明人 (OZAKI, Akito)

名古屋外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：60119659

福村 好美 (FUKUMURA, Yoshimi)

長岡技術科学大学・工学部・教授

研究者番号：70377224